

学 位 論 文 要 旨

氏 名

ジョキム ベウ キトレレイ

題 目

太平洋島嶼国における漁業管理に関する研究
・ コミュニティの機能に注目して ・
(A study of Coastal Fisheries Management Systems in the Pacific Islands)
(-Focus on the Functions of Communities-)

本研究は、太平洋島嶼国における資源管理の実態分析を通じて、有効的な資源管理体制のあり方を実証的に提起することを目的とする。事例としてフィジーをとりあげる。フィジーは太平洋島嶼国のなかでも沿岸漁業が盛んな国のひとつであり、漁業法による統一的な管理、集落の首長による地域的慣習による管理、NGOや研究機関などの支援による管理など多様な資源管理体制が模索されている。しかし近年、一部地域において資源の豊度が低下するといった事態も報告されており、沿岸水産資源の適切な管理が求められている。複数の事例分析を通じて、適切な資源管理体制の構築に向けた条件や課題を明らかにした。

本研究では、5つの点について明らかにした。

第1に、フィジーにおける漁場管理体制の課題を明らかにした。フィジーには qoliqoli と呼ばれる漁場管理制度が存在する。しかし、住民に対する周知方法が十分ではなく、村間で漁場利用をめぐるコンフリクトを生んでいることが明らかとなった。

第2に、沿岸住民の漁撈行為を GIS(Geographic Information System) を用い、沿岸住民の漁場利用実態を追跡した。村落の人口増加により漁場が相対的に狭隘化するなかで、一部の住民は規制を遵守しない実態が明らかとなった。政府に加えて、人々の行動に影響力を持つコミュニティの役割が重要であることを提起した。

第3に、住民の漁撈行為を規定する制度について分析した。政府は統一的な制度による沿岸漁場管理を目指しているものの、村落を起因とするローカル・ルールの影響が依然として強いことが明らかとなった。漁撈行為を管理する制度が未確立な地域もみられ、漁獲量の減少や魚体サイズの小型化に対応できない実態が明らかとなった。

第4に、フィジーにおいて最も普及した資源管理方式である MPA の類型とその有効性について分析した。村民は MPA の有効性については理解するものの、MPA 設置による短期的な収入減少を懸念、総じて MPA は小範囲、設置期間は短時間に留まる傾向にあることが明らかとなった。

第5は、市場での漁獲物チェック機能について分析した。フィジーでは、販売目的の漁撈行為を行う場合、ライセンスの取得が求められる。さらに、販売が許される魚体サイズについても規定が存在する。しかし、それらのシステムが村民に十分に理解されていないうえ、市場でのチェック機能も十分ではなく、制度や規制の周知・運用方法に課題を残すことが明らかになった。

以上の分析結果から、漁場利用、漁撈行為、資源管理、販売の局面を包括した管理方式 (BERPM アプローチ ; Boundaries, Activities, Rules, Practices and Market) の導入が求められることを提示した。また、実効性ある制度運用のためには、村民への周知・教育体制の検討が必要であるが、政府によるトップダウン的なアプローチではなく、沿岸住民の行動規範に強い影響力を持つコミュニティの役割と機能に留意することが肝要であることを提起するとともに、フィジーにおける新たな統合的沿岸管理モデルを提案した。